

兒篠

し、其大なる一葉は左に向、二葉の小さきは根上の三葉とその大きさ略同じ、その葉の状、大抵雄竹に似て、雄竹よりは短く、また濶大にして甚薄し、その幹すべて葉のつくかたは扁にして、中に一線路高く起り、葉のつかざるかたは、全く正圓なる事常竹と一樣なり、今人此竹を探瀝を去りて箸とす、甚だ雅趣あり、また此筍は四月の末五月のはじめに生じ、狀茅針に似てや、扁たく、其筍紅紫淡黃の兩色相交りて、別に紅紫色の細縦道ある事、全くはちくの如し。

〔和漢三才圖會 八十五回 木 篠○中略〕

〔古今要覽稿 草木〕兒篠チコ

兒篠チコ 知古 佐佐高尺許葉最細長八九枚生於頂上有白縱理如線青白相交甚可愛本草所謂龍絲竹指

此等乎、

〔古今要覽稿 草木〕兒篠

兒篠、一名しまざ、一名やなぎ葉ざ、は、即龍須竹の一種なり、その高さ僅に五六寸、或八九寸、その葉細長、頗る根籠に似て、毎葉青白色の細縦道あり、佳麗最愛すべし、故に皆人これを以て庭砌間の石傍、或は小樹下に植へてかざりとす、その小樹下にありて年を経るものは、その樹とその高低をあらそひて、樹もし三尺許なる時は、此さゝもまた三尺許に至る、その三尺許のものは、大抵五節にして、梢上に五七葉をつけ、或は一兩枝を生ずるものあり、その枝幹並に細小にして、恰も篠の如し。

〔古今要覽稿 草木〕龍鬚竹

龍鬚竹、一名龍絲竹は、もと西土より来る、その幹極めて細小にして、鍼の如く、また絲の如し、高さ僅に八九寸、その葉また細小ほゝ結縷草に似たり、此種は辰州に生ずるよし本草綱目にみえたれば、今あるものも蓋しその地の產なるべし、又一種幹高さ六寸許にて、根旁別に二白須を生じて、其長さ本幹よりも五倍するものあるよし、竹譜詳錄にみえたれども、此種舶來ある事を聞ず、